

2024（令和6）年度学校関係者評価報告書

2025（令和7）年5月

学校法人A O I 国際学院
A O I 国際福祉専門学校

◆令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人A O I 国際学院A O I 国際福祉専門学校は、学校評価に関する関連法令に基づき学校関係者評価委員会を設置し、「令和6年度学校自己点検評価報告書」を基本にした学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

1. 対象期間 2024（令和6）年4月1日～2025（令和7）年3月31日

2. 実施方法

1. 専修学校における学校評価ガイドラインを参考に実施
2. 年度末終了後に評価を実施
3. 評価結果はホームページに掲載

3. 学校関係者委員

氏 名	所 属
高 橋 剛	慶應義塾大学 新川崎先端研究教育連携スクエア事務長
大 槻 清 一	社会福祉法人 欣水会 特別養護老人ホーム 滝の園 事務長
齋 藤 良 昭	鶴勝・齋藤駐車場 経営者

4. 自己点検評価項目

以下の11項目について実施

- ◇基準1 : 教育理念・目的・人材育成像
- ◇基準2 : 学校運営
- ◇基準3 : 教育活動
- ◇基準4 : 学修成果
- ◇基準5 : 学生支援

- ◇基準6 : 教育環境
- ◇基準7 : 学生の受け入れ募集
- ◇基準8 : 財務
- ◇基準9 : 法令等の遵守
- ◇基準10 : 社会貢献・地域貢献
- ◇基準11 : 国際交流

5. 評価項目に対する評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

◇基準1 : 教育理念・目的・人材育成像

総合評価

4.0

- ・自己評価は適切である。
- ・教育理念、教育の目的については介護福祉士の養成校として「福祉のこころ」を介護現場で実践できる介護福祉士の養成に努めると言う建学の精神を、学生に入学の早い段階で周知している。人材育成像については学生に周知するとともに、学外に向けての発信もホームページから適切に行われている。特に海外向けは丁寧な解説がなされている。
- ・建学の精神、教育方針（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）も明確であり、ホームページでも9つの言語で掲載するなど発信方法も入学志望者向けに工夫されている。
- ・建学の精神・「治す」と「防ぐ」と定め「福祉の心」介護現場実践を挙げている。人材育成・介護福祉士養成施設が教育目的の介護福祉士資格取得目標を具体的に設定し、思いやりと感性豊かな人材教育を評価します。人材育成像は建学の精神および入学受け入れ方針で明確に述べている。

◇基準2 : 学校運営

総合評価

4.0

- ・自己評価は適切である。
- ・基本的な諸規程も整備されており、教学面でも学籍管理システムも導入されるなど、学校運営に必要な仕組みが整備されている。
- ・HPは見やすく、財務状況等も適切に公表されている。
- ・学籍管理システムを導入する等効率化も図られ正確性の向上も確認できる。
- ・各種法令等コンプライアンス体制も確立されており健全な組織運営がされている。
- ・事業計画に沿って教職員会議等で周知徹底されており、人事給与に関する規定は整備されている。
- ・データをNASで管理し、共有化による効率を図り、業務の効率化に繋がっている。

- ・自己評価は適切である。
- ・実習先からのフィードバックをもとにした改善活動など継続的な努力が伺える。引き続き学修成果向上に向けて不断の点検・改善に注力することが期待される。
- ・介護福祉士養成校として優秀な学生を多数輩出し、地域内での評価は年々高くなっている。
- ・学生の就職先施設や企業・関係団体との連携を密に取りながら教育活動を行っている。引き続き教育の質の向上を目指し取り組んで頂きたい。
- ・建学の精神に基づき「社会福祉士介護福祉士学校指定規則J」の教育課程編成されている。
- ・教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた教育機関として、教員が中心となり、教育到達レベル、学習時間の確保明確にしている。
- ・社会福祉士介護福祉士指定規則に則り、カリキュラムの作成は体系的に行っている。
- ・カリキュラムに介護福祉士としての実践的な実習を行っている。
- ・成績評価・単位認定の基準は明確になっている。
- ・資格取得の指導体制・カリキュラムの中で体系的に位置づけてある。
- ・教員・人材育成目標に向け介護福祉士等の資格を備えた教員を確保し、介護及び医療的ケアについて実体験を通じた人材の育成を行っている。
- ・教職員能力開発・外部研修に参加し研鑽を積んでいる。

- ・自己評価は適切である。
- ・学校の性格上資格取得は重要であるので日本語教育のほか、卒業生の活躍を在校生に知ってもらうなど学修意欲の向上を図り資格取得率の向上に結びつけてもらいたい。
- ・就職率100%は創設以来学校を上げて努力した成果だと思います。
- ・介護福祉士合格対策として、日本語教育重要と思われます。教職員の皆様のご苦勞を察しますが、より一層のご努力をお願いしたい。
- ・退学者が無し、これは高く評価される事項と思う。進学する前から入学希望者に対して本学の教育理念、目的を正確に伝えそれに見合った人材を確保した結果と思う。

- ・自己評価は適切である。
- ・支援体制は整っているので、引き続き学生目線の対応を心掛け、安心して学修できる環境整備に努めていただきたい。在校生のロコミは入学者確保にも影響を及ぼすと思われる。
- ・建学当初から教職員が卒業生を含め学生に寄り添い支援する姿勢は素晴らしく思えます。
- ・学生に対する経済的な支援として奨学金制度利用をサポートしている
- ・学生の健康管理・年一回の健康診断の実施、看護師資格を持つ職員が日常の健康管理を行っており、引き続き体制を維持してもらいたい。
- ・卒業生支援について、開校から10年近く経過し卒業生其々の生活環境も変化している、各々のニーズに即した支援をして欲しい。

- ・自己評価は適切である。
- ・学外施設の定期的な点検も継続し、良好な環境の維持に注力することが期待される。また、災害時の避難方法・場所等の周知、安否確認の方法の確立なども学校生活を安心して送るには重要である。
- ・学校施設・設備とも充実しており申し分ない。
- ・学内施設の点検継続、良好な環境の維持に注力することが期待される。
- ・防災に対する体制・教職員、在校生全てにヘルメット等整備、法令に従い点検の実施、防災管理者2名在籍、防災体制の徹底を図っている。

- ・自己評価は適切である。
- ・自己評価を踏まえた改善方策も適切であるが、定員充足率は財政状況に直結することから、日本人学生の占める割合など何らかの目標値を定め、募集活動の具体策を構築し、教職員全員で共有・実行していくことが喫緊の課題と思われる。
- ・入学者数も安定しており教職員の方々の努力が窺える。
- ・学生募集活動は適正に行われている。課題として日本人学生の入学者が少ない事が挙げられる。日本人学生の確保が課題、日本国内全域に募集を広げ入学に結び付けて欲しい。
- ・学生納付金は他校と比較し同等であり、社会通念に照らし合わせても妥当だといえる。

-
- ・自己評価は適切である。
 - ・2024年度は学生数を確保でき次年度繰越金も大幅に増加したとのことであるが、基本金組入前当年度収支差額を健全な数値に保つためにも、引き続き、定員充足率の向上に向けて取り組む必要がある。
 - ・収支のバランスもとれている。決算前に複数の監事による会計監査が行われており、適正に執行されている。
 - ・財務情報の公開については、公開対象書類のホームページでの開示及び当該事務室に備え、閲覧可能となっている。

-
- ・自己評価は適切である。
 - ・自己点検・評価については、自己評価内容や改善方策を教職員全員で共有することが重要である。まずは問題点の改善に向けて具体的な今後の取り組み内容を明確にすることが必要である。
 - ・自己評価と問題点の改善は一朝一夕にできることではないと思います。引続きのご努力をお願いします。
 - ・個人情報のデータに関しては、アクセス権の設定及びパスワードにて保護し管理を行なっている。
 - ・法令及び設置基準を遵守し、適性な運営を心がけている。

- ・自己評価は適切である。
- ・まずは地域のニーズを把握し、学生が社会・地域貢献活動に参加するインセンティブを作るなどの工夫が期待される。地域の方の視点は学校の魅力を向上させるためにも必要であるし、日頃のコミュニケーションは学生がトラブルを起こした際にも重要である。
- ・職業訓練委託校として社会人の受入れを行ったことは優れた取り組みとして評価できる、今後も続けて欲しい。
- ・地域貢献として、例えば介護体験講座の開設や夏祭りの参加、駅周辺の環境整備などに取り組み、地域との交流が持てたらいいのではないかと考える。そうすることにより、福祉専門学校としての認識が深まると考える。

- ・自己評価は適切である。
- ・留学生の学修・生活指導について学生個々に対応していくことは難しいことであるが、入学を決断するうえで最も重要な一つでもある。引き続き、学生一人ひとりに寄り添った対応を期待する。
- ・留学生の学習については、日本語教育も積極的に取り組んでいる。また、在留資格更新手続きもフォローしている。
- ・学修成果が国内就職先から高評価を得ている。